

企業 訪問 *Interview*



代表取締役 ^{わたなべ} 渡部 ^{ひでいち} 英一

COMPANY DATA

株式会社猪苗代観光船

所在地 耶麻郡猪苗代町大字翁島字長浜870
T E L 0242-72-1370 F A X 0242-72-1371
設 立 2021年6月 資本金 2,600万円
U R L <https://i-kankosen.co.jp/>
事業概要 不定期旅客船事業、船舶無線事業、ドローン事業、飲食事業

株式会社猪苗代観光船

～猪苗代湖で観光船「はくちょう丸」「かめ丸」を 安全運航し、夢と感動、思い出を提供する企業～

福島県を代表する観光地猪苗代湖の顔でもある観光船「はくちょう丸」「かめ丸」が廃船になるというニュースがコロナ禍の2020年に話題となったことを憶えている方も多いのではないのでしょうか。「猪苗代湖にあるのが当たり前」という存在の観光船が無くなるという危機は、新会社による事業再開によって乗り越えられ、観光船は現在も多くの観光客に親しまれています。新会社を設立したのは観光船が発着する長浜に所在する LAKESIDE HOTEL MINATOYA（ホテルみなとや）の渡部英一社長です。

今回は、猪苗代町の「ホテルみなとや」を訪ねて渡部英一社長に観光船新会社を設立した経緯や今後のことなどについて伺いました。

■当初はやりたくないと思っていた

— どのような経緯で渡部社長が新会社を設立されたのですか —

前の運営会社が2020年6月に倒産して廃船の危機という話を聞いた時、当時はコロナ禍でホテル自体が大変な時期でしたので、「次の経営される方が早く見つければいいな」という感じで、私自身が関わるとは全く考えていませんでした。船の維持には月に約100万円かかるので、残った資金ではあと1年持つかどうかと言われていました。廃船の危機に対し全国放送のテレビや新聞といったマスコミの方々が訪れ、誰も引き継ぐ人がいないということが報じられていました。「ホテルみなとや」は観光船の発着所のすぐそばにありますので、多数のマスコミの方がホテルにたびたび取材に来られました。しまいには「目の前で商売をしているのに観光船が無くなっていいのですか！あなたがやらないで誰がやるのですか！」となかば脅しのような感じでも言われました。お前がやれよという声に対し、私はやりたくないと思っていたのですが、引き受け手が現れず1年ぐらい経ったところに「応援しますよ。スポ

ンサーになり出資しますよ」という方が現れて私の考えが変わっていきました。

■出資申出や全国からの応援の声に自分がやることを決意

— 考えが変わった経緯を教えてください —

初めにお話をいただいたのは福島県出身で東京の出版社を経営されている方で、「報道を見た。会津の人には本当に世話になって、うちの会社の現在がある。何かあれば貢献したい」と私の知人を介して出資の申出がありました。そのような中で、大阪の業者が「はくちょう丸」「かめ丸」を買い取るという話が出てきました。ただし、その条件として猪苗代湖から別の場所に持っていくということでした。

それを聞いて私は「ちょっと待ってくれ」と思いました。出資すると言ってくれる熱い想いの方もいるし、全国から私に何とかして欲しいという声がありましたので、社内は絶対反対だったのですが、「私がやらないでどうする」と新会社を設立し観光船を引き継ぎ、猪苗代湖に「はくちょう丸」「かめ丸」を残すことを決意しました。

■資金が足りずにクラウドファンディングで全国から応援をいただく

——引き継ぐことを決意してから上手くことは運んだのですか——

新会社が船を運航するまでには様々なハードルが立ちふさがっていました。湖であっても海と一緒に許認可が必要なのがわかり、それも猪苗代湖は国立公園なので、公園内での運営認可は環境省、湖での運航許可は国土交通省の特別許認可が必要でした。テレビで猪苗代湖の廃船問題は報じられていましたので、行政側でもよく知っていたようで、手続きに不慣れなところを手伝っていただきました。

その後、新たな問題も持ち上がりました。1年以上運航していないので船体の傷みが激しく、検査・補修に多額の費用がかかるということです。国の補助金を利用しても足りない状況でした。そこで、破産管財人に大阪の業者への売却を待っていただき、その間に他の出資者を募り、足りない分はクラウドファンディングで北海道から沖縄まで全国約1,000人から約1,600万円を集めました。その資金で塗装と修繕を施し「はくちょう丸」は2021年10月29日に1年4カ月ぶりに運航を再開することができました。

■猪苗代湖に船を残して欲しいという多くの声をいただく

——これだけのお金が集まるのは皆さんが猪苗代湖の観光船を愛していたのですね——

資金が足りない状況で早くしないと大阪の企業に売却されてしまう中、友人の会社に出資をお願いすると即まとまった金額を用意していただくこともありましたし、全国から「何とか観光船を猪苗代湖から無くさないで」というたくさんの声をいただいたりしました。新会社設立の手続きについても友人たちの協力により、早く会社を立ち上げることができました。

福島市出身の俳優なすびさんは元々知り合いで、彼がクラウドファンディングの話を聞いて、「私も



応援します。クラウドファンディングに名誉船長の制度を設けませんか」とまとまった金額の出資申し出をいただきました。名誉船長は100万円以上出資した方に贈られる称号であり、なすびさんが第一号で他にも名誉船長が何人かいらっしゃいます。

■明治10年創業の歴史あるホテル

——ホテルみなとやについて教えてください——

当ホテルは1877年（明治10年）創業の船宿が始まりです。私が実質4代目の社長になります。創業当時は、会津～郡山間は陸路よりも、磐越西線が開通する前までは、ここ長浜から湖南の舟津まで湖上輸送が盛んだった時代です。長浜の港、正式には翁島港と言いますが、すぐ目の前にありましたので、“みなとや”と名付けられたそうです。1915年に野口英世博士が帰国した際の歓迎会が当ホテルで開かれた歴史もあります。本館は1974年に木造から現在の防火建築に建て替え、その後何度か増築、別館は1961年築でその後全面的にリニューアルしています。どの部屋からも猪苗代湖が見える「レイクビュー」をお楽しみいただけます。

近くの坂道を上ったところに旧皇室の別邸「天鏡閣」があります。磐梯山と猪苗代湖を一望できる景勝地を皇族の方がお気に召されて明治期に建てられたものです。昭和天皇・香淳皇后は大正期に新婚旅



磐梯山をバックに猪苗代湖を航行する「はくちょう丸」

行で天鏡閣に滞在されたこともあり、結婚60周年の際に思い出の地である猪苗代にお越しになられ、その際に「かめ丸」にご乗船なされたという歴史もあります。

■ピンチをチャンスと思い、新たにテントサウナを始めた

— 観光船が再開した頃はコロナ禍で観光船もホテルも大変だったのではないですか —

観光船もホテルもお客様がほとんど無く、特に宿泊に関しては非常に厳しい状況でした。このまま黙って何もしないでいてもしょうがないので、後継者である息子が猪苗代湖畔で個室サウナをやればいいのかと発案して、テントサウナを始めました。貸し切りなので他の人と接触しないということがサウナブームと相まって見事に当たりました。これで何とかコロナ禍の逆風を生き延びることができたかと思っています。観光船もそうですが、コロナ禍の収束とともに回復したという状況です。

コロナで大変な時だったから、後はそれ以下のことはない、後は上に昇るだけだというチャレンジでした。ピンチはチャンスなので、コロナ禍でチャンスを与えてくれたのかなと思っています。

■「かめ丸」はレストラン船に改装し、様々なイベントに対応

— 「はくちょう丸」と「かめ丸」の2隻ありますが、どのように運用しているのですか —

全国的にキャラクター船は少なくなってきています。カメは全国にもう1隻あったのが無くなり、白鳥は諏訪湖にありますが、ほとんど運航していないようです。それで数少ないキャラクター船ということで人気があります。ただし、前の運営会社と同じことをやってもしょうがないので、運用を少し変えています。

「かめ丸」はレストラン船に改装して、食事、いろいろな催し物、冠婚葬祭ができる船になっています。「かめ丸」と「はくちょう丸」は両方定員が150人ほどであったのが、「かめ丸」は椅子テーブルで食事ができるよう改装したので48人定員となっています。船上レストランは猪苗代高校生徒の発案です。私が同校観光ビジネス学科で長年非常勤講師を務めていることもあり、いわば教え子が猪苗代観光の復活をかけて考えてくれたアイデアです。

閑散期には「はくちょう丸」が遊覧して、「かめ丸」は停泊して、かめ丸カフェあるいは次の船が出発するまでの待合所として利用しています。繁忙期にはピストンで両方動いています。貸し切りは、修学旅行など団体でのご利用の際に、「はくちょう丸」「かめ丸」どちらも動かしています。食事を伴う場合は「かめ丸」ということになります。

いろいろ注目された船ですので、おかげさまでご利用のお客様が多く、GWやお盆、紅葉シーズンなどは従来よりも多い一日約千人の方にご乗船いただいています。

■「かめ丸」は結婚式にも利用されている

— 「かめ丸」で食事を提供されて運航されるのはどのような時ですか —

専門のスタッフが船弁と呼ばれる船の弁当として「わっぱ飯」を提供しています。船は結婚式にもご利用いただいております。「かめ丸」のキッチンはお金をかけて改装していますので、フル装備でほと



発着所に係留する「かめ丸」

んのものが揃っています。他の業者を呼んで、船内のキッチン設備を使用して、ご自由に和食や洋食を提供していただくことも可能です。

また、結婚식을船上であげて宿泊は「ホテルみなとや」というプランもあります。ちなみに船上での宿泊許可をとっていませんので、「はくちょう丸」「かめ丸」に宿泊することはできません。

■台湾からのお客様が多く、他にも世界中のたくさんの国の方が訪れる

— 会津ですと観光船を利用するインバウンドの方は多いのではないですか —

海外客で多く利用いただいているのは、台湾からのお客様です。台湾からは冬はすべての旅行コースにここ長浜で白鳥の餌付け体験が入っているとのことで、団体客のバスが平日でも一日に何十台と訪れますので、多くの方にご乗船いただいています。

個人でOTA（オンライン旅行代理店）を通じて来られる方は、それこそ世界中という大げさかもしれませんが、欧米の方、東南アジアの方、それこそ今まで来たことがないような国の方などたくさんいらっしゃいます。

■多くの宿泊者が観光船を利用されている

— 「ホテルみなとや」に宿泊される方は大体観光船を利用するのですか —

すべてというわけではありませんが、多くの宿泊者にご利用いただいています。観光船の船券付きと

いう宿泊パックも設定しておりまして、割引価格で乗船できます。ホテルで今一番人気なのは、「みなとやベーカリー猪苗代」と名付けた東京の人気ベーカリー「パンとエスプレッソ」が監修した当ホテル自慢の湖畔のご褒美パンです。他には、宿泊してテントサウナを体験して、夜は屋上でバーベキューやグランピングというコースが人気です。

個人のお客様はカップルの方が多いですし、若い方が多いです。男性だけのグループも多いですし、家族連れの方もいらっしゃいます。

■安全運航と安全装備が第一

— 安全のために必ず守らなければならないことがありますよね —

海と違って湖は波が穏やかですけれども、法律は海と同じものが適用されます。2022年に知床の遊覧船沈没事故があつてからは、安全運航と安全装備にかなり厳しくなっており、今までやらなくても良かった設備投資も必要になっています。船は40年以上経っていますので、新艇を考えなければならぬところに、知床の事故を受けて、1,000万円近くかけて、救命浮環といって海の上に投げると自動的に膨らんで救命ボートになる設備に投資しました。そこにお金がかかったので、新艇は少しお預けになって、今進めているところです。

知床の事故があつてからは、波が1メートル、風が10メートル以上、視界が300メートル以下だと運航ができません。厳しくなりましたが、安全安心で航行するというのを第一優先で運航しています。

■水中ドローン事業など船に関連する事業に業務を拡大

— 観光船の運航のほかに何か事業をされていますか —

船の運航だけにこだわることはないと思ひまして、いろいろと事業を始めています。まず、2024年に開始した水中ドローン点検調査事業があります。これは水中ドローンを使用して、船舶底部や水中設備の点検、海・湖川の水中環境調査などを行うもので

す。また、「登録検査等事業者等」として、船舶の無線事業の検査と更新事業も始めています。無線事業はいわきに業者があったのですが、高齢化で事業を継続しないということなので、当社がそれを引き受けています。船の事業だけではなく、船に関連する事業に拡大しているところです。

地元の小学校などの環境学習にも力を入れています。郡山市のあさか開成高校さんは水質の勉強を長年やっていらっしゃるって、水質調査のために遊覧船を貸し切って、毎年水辺の調査を行っています。農業の排水窒素リンが増えると、水草がそれを回収してくれます。その水草が放置されて水質が汚染されています。猪苗代湖で商売ができるのは猪苗代湖が綺麗であってのことですから、水草回収事業として、環境問題に当社も地元団体と協力して取り組んでいます。

■夢のある事業、夢と感動を与えられるような事業を展開したい

— 貴社の今後についてお聞かせください —

事業を成功させることが出資いただいた方への恩返しだと思っております。今後は老朽化した船から新しい船の導入を検討していきたいです。あとは先ほども申しました無線の更新事業や水中ドローン事業のような船に関連した事業に取り組みたいと考えています。ここは湖ですので、水産養殖業や水上飛



湖畔から見えるホテルとテントサウナ、磐梯山

行事業などを考えています。

猪苗代湖で夢のある事業、夢と感動を与えられるような事業を展開することができればというのが私の夢です。ぜひ皆さまにも猪苗代湖に観光に来ていただき、「はくちょう丸」「かめ丸」にご乗船され、猪苗代湖で楽しい思い出作りをしていただければと思います。



新会社を設立した経緯などを語っていただきました

インタビューを終えて

湖といえば遊覧船というイメージがあり、私自身、子供の頃に猪苗代湖で遊覧船に乗り、磐梯山を眺めながら湖面を進む爽快感を楽しんだ記憶があります。取材後に長浜の観光船発着所に行きましたところ、残念ながら「はくちょう丸」は遊覧中で遠く彼方に見えるだけでしたが、広い猪苗代湖を優雅に佇む白鳥のようなシルエットでした。

渡部社長のホテル自体も湖畔でのテントサウナなど新しい試みで誘客に取り組んでいます。猪苗代には多くの観光スポットが点在していますし、猪苗代湖や磐梯山を眺めるだけでも清々しい気持ちになることができます。皆さまもぜひ猪苗代を観光してみたいはいかがでしょうか。 (担当：高橋宏幸)